

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都多摩市鶴牧1-26-3
園名	キッズサポート多摩第二めぐみクラブ

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

きのこを知る

<テーマの設定理由>

散歩時、木の根などに生えるきのこを見つけて「きのこだ!」と言い、観察したり触ろうとする姿が多く見られた。また、物質や植物の変化への気付きや生活体験が元となるごっこ遊びが盛り上がっているので、「きのこ」をテーマにおき、見る・探す・育てる・調理する・食べるまでの経験が出来るように計画を立てた。

### 2. 活動スケジュール

(プロジェクトのきっかけ: 5月の散歩時期にきのこに関心を示していた)

9月～ 部屋にきのこの図鑑や絵本を置き、関心を高める

10月～ 散歩に出掛け、きのこを探したり見つけたきのこを観察したりする

11月～ しいたけ・エリンギ・えのきだけ・ブナシメジ・ひらたけの栽培キットで栽培を始める

生長したしいたけを収穫し、バター醤油炒めにして食べる

12月 えりんぎ、ひらたけを収穫し、バター醤油炒めにして食べる

えのきだけを収穫し、すまし汁に入れて食べる

ぶなしめじをピザに乗せて食べる

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

#### 【道具】

- ・『きのこ』の図鑑、絵本『いろいろきのこ』
- ・きのこの栽培キット (しいたけ×2、エリンギ、ひらたけ、えのきだけ、ひらたけ)
- ・調理器具 (ホットプレート、包丁、まな板、ボウル、ザル、木べら、皿、食具など)

**【環境設定】**

- ・きのこの栽培キットは日々の生長が子どもたちに見えやすいように室内の玩具棚の上に置いた。(子どもたちの目線の高さ)
- ・エリンギ、ひらたけ、えのきだけ、ひらたけは保育室だと室温が高すぎて発芽しなかったため玄関ホール先の窓際に置き、散歩に出る際に必ず立ち寄り子どもたちと一緒に観察したり水やりをしたりした。
- ・きのこの調理では子どもたちの真ん中で包丁を使ったりホットプレートで焼いたりして調理する工程が子どもたちによく見えるようにした

**4. 探究活動の実践**

〈活動の内容〉

〈活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり〉

※別紙参照

## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

のべ5か月以上にわたるきのこの活動となり、日常生活の一部にきのこが溶け込んでいく様子を感じ取ることができた。

きっかけは初夏に行った散歩で見つけたきのこに関心を持ったことであったが、そこからきのこの図鑑を見たり意識的に散歩できのこを探すようになりクラス全体的に関心が高まったように感じる。きのこのポスターを部屋に貼ったことで普段図鑑を開こうとしない児も自然ときのこを目にし、11月にはどのきのこが好きか、友だちと話す姿も見られた。きのこの栽培を始める頃には皆の中にきのこが根付いており、栽培することや大きくなっていくことをより楽しみにしている様子が印象的であった。

特にしいたけは、日々の生長が早く子どもが見ても変化が分かりやすかったので生長を楽しみに見守ることができた。しいたけの生長が予想以上に早かったがそのおかげで栽培から収穫、調理、食べるまでのスパンを非常にテンポよく行なうことができた。どんなきのこを調理し、食べているのかがより分かりやすくなるので良かったと思う。しいたけ以外のきのこ類はなかなか大きくならなかったがしいたけで経験していたおかげで存在を忘れることなく楽しみに待つことができた。また、種類が多かったためシンプルなバター炒め以外にも汁に入れたりピザに乗せたりなど様々な調理法になっても元がきのこであることを見失わずに調理や味を楽しんでいた。

きのこの取り組みは12月で終わったが長い期間きのこに触れていたため子どもたちの中にきのこの意識が根付いており1月以降も切り株に生えているきのこ（主にサルノコシカケ類）を見つけて観察したり給食の中に入っているきのこに気付いて「しめじかな・・・」と話したりしている。

今回のプロジェクトは、それを遂行するために特別な活動を行なったというよりも普段の環境の中に自然ときのこがありきのこと共に生活が流れていたことで、特別感なく自然と子どもたちの中に関心がわいたことが一番の成功だと感じている。